寛永諸家譜

濫野氏
服部氏

162

内閣文庫
番號 和 20199
冊數 186(162)
函號 特 76 1

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

滋野姓
真田
市下
服部姓
服部

海野

寛永諸家系譜傳

滋野姓
真田

亡人和佐守信州海野白鳥大明神と滋野の姓祖といひたてまつる

やいふ員秀親王と滋野天皇と滋野

いかゝ人よわ真田の氏神と称

今見とあり或ハいく員秀親王

此ハ滋野の姓とあまふものゝ

浅草文庫

人皇五十六代

清和天皇

貞秀親王

法師天皇と号す

幸恒

海野小太郎

幸明

小太郎

亟家

孫陳小太郎

重俊

四月三郎

国立公文書館
National Archives of Japan

章真（ゆきさだ）
海老小太郎　信濃ち

章盛（ちり）
小太郎　信濃ち

章家（ひさ）
小太郎　信濃ち

章勝（ゆきかつ）
小太郎　信濃ち

章親（ちかち）
小太郎

章廣（ひろ）
孫平四郎

寛永二年備中國多鴻合戦の時代
大ねとなりて討死　家政例演
代代ありたるく六連続と

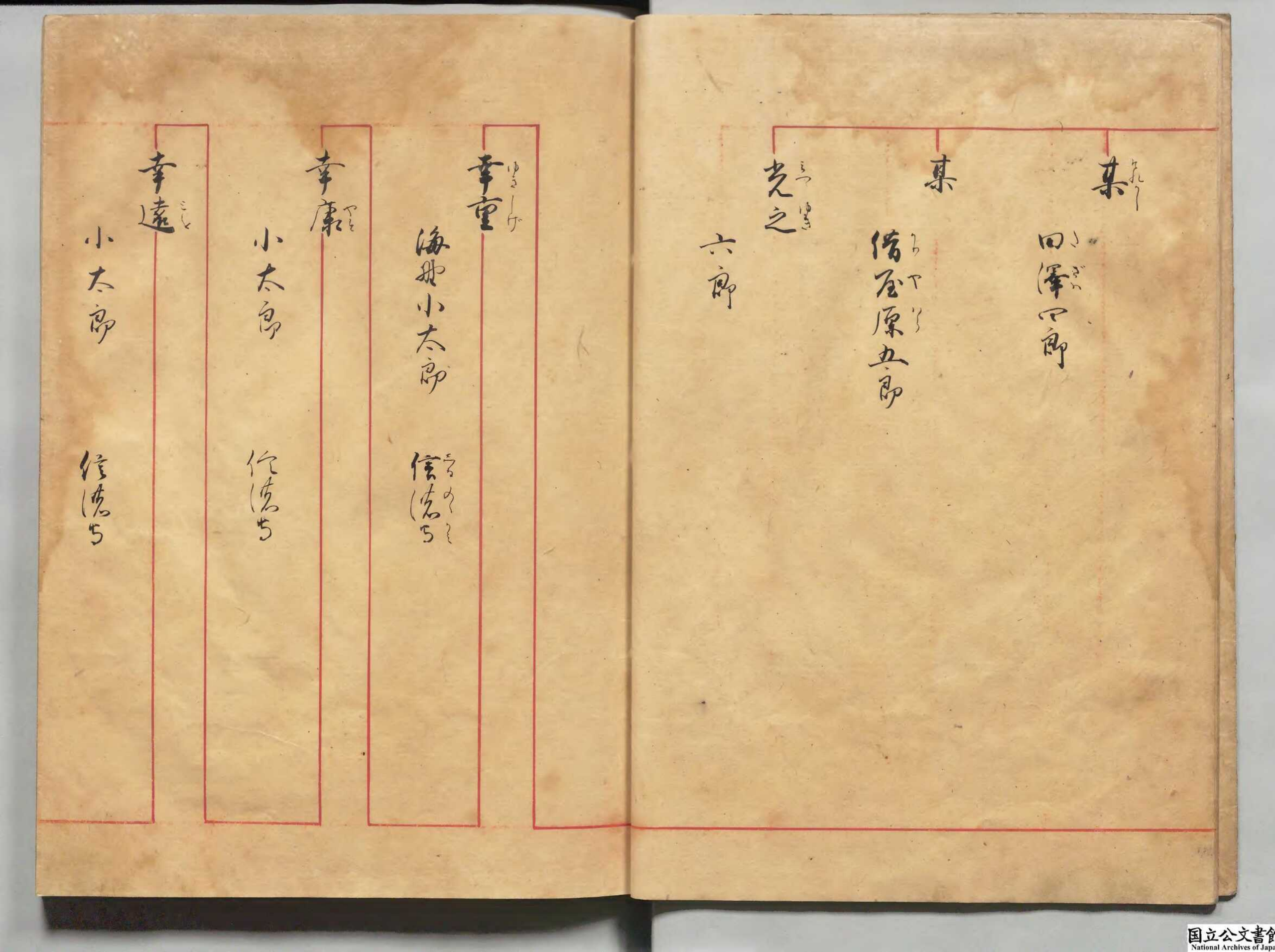
章氏
小太郎　信清

章継
小太郎　信清

章春
海野小太郎

栄
倉田小次郎

栄
塩原三郎



- 某
  - 田澤四郎
- 某
  - 信屋原五郎
- 光之
  - 六郎
- 幸宣
  - 海野小太郎
  - 信濃
- 幸廉
  - 小太郎
  - 信濃
- 幸遠
  - 小太郎
  - 信濃

章永（ながし）
小太郎　信濃守

章昌（まさ）
小太郎　信濃守

章信（のぶ）
小太郎

章定（さだ）
小太郎

章秀（ひで）
小太郎　信濃守

章守（もり）
小太郎　信濃守

章則（のり）
小太郎　信濃守

国立公文書館
National Archives of Japan

章義
小太郎

泉
宗下者後也

章教
海野小太郎

持章
小太郎

氏章
小太郎
信濃守

章棟
小太郎
信濃守

棟綱
小太郎
信濃守

幸義

小太郎　右京亮

信州ニ[illegible]ク　村上義清ト合戦

此時討死

幸隆

小太郎　弾正忠　生国信濃

世代ハ真田ノ左衛門佐ニ[illegible]故

[illegible]テ称号[illegible]

天正二年五月十九日　六十二歳ニ[illegible]

死ス　法名一徳斎

信綱

真田源五郎

天正三年五月廿一日　三十九歳ニ[illegible]

叔父長篠合戦ニ[illegible]テ戦死

昌幸

安房ち

寿長十四年六十五歳みく高野

ゝ[illegible]死を

信昌

源次ち　七国信濃

天正十二年　後州ゝて神く

大坂城ゝ籠城ゝ

寛永九年江戸ゝて病死

八十六歳　法名無為

幸政

長谷東尉　七国位濃

寿長五年大坂ゝて

大坂城ゝ籠城ゝ毛利ゝ

名誉院殿とゝび

将軍家ニ仕ヘ奉リ
寛永八年二月　御納戸ヲ以テ
御使番ト為ス

信勝

内藤外記　生国武蔵

右徳院殿ニ仕ヘ奉リ
寛永二年御書院の列ト為ス後
将軍家ニ仕ヘ奉リ

幸信

右兵衛尉　生国武蔵

寛永十七年ヨリ
将軍家ニ仕ヘ奉リ小姓組
ノ番ト成ル

幸吉

市左衛門　生国同所

寛永十七年より
将軍家より代々寺てまつり申小姓組
の者とせらる

信雄

伊豆守

文禄二年九月一日秀吉の御ゆるしを
て伊豆守に叙し伊豆と
大隅国の御書数通しるされ後に是を書

信政

内記

元和二年
右徳川秀忠の時京都にをいて
信雄と申候五位下に叙せ

信重

隼人正

女子　女子

家の役六連撰

寛永五年同原陣の時

右御所より信濃へ御書の写し

今度あ唐ら様御日記を

ふ様遠ら立し事物を美ら和

下ら佐源ら二百ふ様を人

ニ〻信濃

七月廿日　家康御上判

真田伊豆守殿

今度安房国へ別心ゝ[illegible]を[illegible]
忠節儀[illegible]神妙に[illegible]小縣[illegible]寺
[illegible]初ゝ[illegible]ゝ[illegible]遠[illegible]を以其上
分上何[illegible]成可[illegible]立ゝ[illegible]
旨弥必[illegible]ら[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]

元和九年
七月廿七日　　家康御朱印

[illegible]田伊豆守殿

書状被[illegible]ゝ[illegible]の信州口
令使[illegible]ゝ[illegible]小丈[illegible]ら[illegible]付
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]義[illegible]
[illegible]多佐[illegible]ち[illegible]付[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ら[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

八月廿一日　　家康御朱印

[illegible]田伊豆守殿

無之様ニ
ちいさ形へ相動し条を命御
仙台台坂表へ下ル出張ス
当大久保おゝ様方佐渡守殿
ニて作し

八月廿五日　秀忠御上判

志田伊豆守

無度中ハ大橋治部右衛門清俊
中納ヲ小西摂津守居し記録
二成ル責ニて遣ス
歌おゝ動ス　二沖ノ島ノ坂ヘ
脚を急ス　源力寺所ニ陣

九月朔日　家康御上判

志田伊豆守

国立公文書館
National Archives of Japan

海野

●宗勝

若狭守　生田右橋

小条源南

重次

次太夫　生田月赤

右御院殿ゟ
将軍家へ参上
家役九曜

海野

昌元

刑部少輔

武田信玄ニつく　生國信濃

永禄四年信州中鴻合戦の

討死　信玄樹信

昌雪

新左衛門　七郎同前

武田勝頼滅亡の後

大枝村とよし

石淵院敬て相傳

寛永十九年九月十日小病死九十

六歳　法名常綱

昌重

筑前守清秀　七郎武義君

元和七年

乃軍家より賜

家の役六文綱

国立公文書館
National Archives of Japan

布下

豊臣

下総守

武田信玄

上國信濃

勝頼

天正十年ニ病死九十二歳法名松叢

常圓

豊明

伊勢守　七岡同前

大検現甲州新府御お馬の時取場

ふくまつ家

関ヶ原御陣の時手負佐渡守組

勇して供を忠切あり

寛永元年二月病死八十三歳法名

月法玄照居士

豊友

名五郎　七岡位佐久郡

大検現をよび

名徳院殿ゟ大坂御陣ゟ供奉

将軍家ゟ御ふまつる

家の役　九曜の紋

国立公文書館
National Archives of Japan

服部社

服部

今按ずるに社家録に横連日命
の末裔なり
元慶天皇の御世
織部司は伊賀
法岡の織部と称し
もとより服部の連と号するよ
子孫伊賀国服部の郡と領せしも
故国より遷任せ

保長

石見守　士岡伊賀
廣忠に仕る　法名道可

保俊

市平　士岡三河
大樹に仕へ奉る　三州吉田一戦
のとき　討死　時に二十四歳　法名道[illegible]

保英

市之丞　士岡内
十三歳にして
大樹に仕へ奉る
元亀元年　江州堅田合戦のとき
年十六歳
長篠長久手　尾州とともに軍功あり
代の時軍功あり

関原御陣の時奥州と押合ふ
同心百人と率野州足利根を発
景長十二年十一月十七日五十四
歳にて死去　法名道作

元亀

市太郎　十四月
文禄三年
大坂城にて御陣
同九年
元和二年
台徳院殿御陣
同九年
将軍家御陣
寛永十七年八月廿六日六十一歳にて
死去　法名宗恵

陣とゝ大坂御陣に供奉

保綱

年号　七国武義

寿永十九年より

大枝頼り作る大坂表

陣を使者

元和二年

台徳院殿頼り作る

同九年

打軍家作る

元延

長大夫　七国武義

寛永元年

打軍家頼り作る

保正

源年来　七国伊賀

元亀三年十二月廿二日 三河三方原
一戦の時 討死 十九歳 法名 清高

保成

甚太郎 源云衆 生岡田氏
大権現様に仕へ奉り
天正十二年七月朝 尾州長久手
と申す所にて討死 三十五歳 法名 豊久

保次

源兵衛衆 生岡田氏
曽祖父 石見守と同
大権現様に仕へ奉り

保森

女子 生岡田氏
寛永十七年四月八日 三十七歳にて
死 法名 玄棲

係定

三郎左衛門　安左衛門　七郎伊勢

天和九年六月廿四日

将軍家より拝領仕候

寛永十八年十一月廿六日小拾人組

八組頭となる

家の役　矢若車

服部

保次

中　土岡伊賀

永禄八年より

大枝城に在之

同九年信長に

あげられ

保次として

親の

陰を図らしむし討死とする
とは百二拾貫文の代地とお遣なく
保正童名彦丸小弟とする時
御書と称するものこれ無いく
一服部中充行本知行分合寄
合百二拾貫文之内
以内百貫文之事別紙帳面
二十貫文之之可罷
天正年末戦死以後ニ今度陸用

就御奉公被遂討死之宛地分
長子彦丸ニ一ヶ所
百石安縣刑部左衛門ニ長見知
分ニ而物ちやの事

天正五丁丑四月廿三日　家康御判

服部中務

天正十年六月
大権現様御御通ノ時之忠と所

伊賀守に列して位奉を賜ふ
鉄炮同心八十俵人あづけとなる
同十八年六月十九日奉別をもて
六十二歳にて死去法名光泉

保正

中　七四郎

天正六年

大棚現

白金院殿様に仕へ奉り
同十二年長久手合戦のとき
大棚現の御服前をもて名を
ときに鉄炮同心七十俵人あづけ
元和二年十一月十九日江戸にて
病死す　五十二　法名正雲

保信

小太郎　七四郎

台徳院殿ならびに
将軍家より所々へ
とまる

保信

生国武蔵

果

三十郎
大坂御陣のとき 伝手をもって

保俊

中 生国同所
年廿十三歳
台徳院殿より所々へ
とまる
寛永七年八月歩行の役となる
同十一年十月
将軍家より五百石の地をくゝ

那二ケ所と領を
同十二年十月御小姓組の組頭となる

保久

二万石　土岡武蔵江戸
寄長十三年十月二十四歳ゟ
右徳院殿ゟ仕へ小姓組
の番を仕る
寛永九年四月ゟ

乃軍家ゟ仕へ大番を勤む

保信

長七郎　土岡四郎兵衛
寛永九年
将軍家ゟ初めて九歳
同十八年七月十二日ゟ大番を勤む
家の役　矢倉番

国立公文書館
National Archives of Japan

服部

柔

源左衛門　生国伊賀

少時の時伊賀にて人となり

しきりに強刀をこのみ

義元に仕ふ　法名浄貞

康次

助惡　牛助　生國豊後

氏共ニ仕へ十八人宿代内ニ

永禄七年一色村の合戦ニ

首級を挙ゲ

の軍功あり氏共皆感書を

もつて賞ス後ニ天神ニ

小筆原ハ郎ニ仕ル

天正十三年十二月十一日ニ死ス

法名業泉

康信

兵吉　後助康と号ス

幼少ヨリ文ヲ好ム

左平次ニ養育セラル

文禄元年三月ニ

台徳院殿ニ仕ヘ

武田

陣ヲ法ス

大坂御陣の時やく柵の前ヲ
ゝせ付き御馳走として敵一人
ゝし給ひすかさら城中ヨリ入
文木甚左衛門大久保彦左衛門
を後藤九郎成則仕ヲ場ヲ
ゝ為ことみゝ
寛永六年二月ヨリ
乃軍令ヲ作ゝ

家の役車ヲゝ矢筈

国立公文書館
National Archives of Japan

服部

貞長

大脇

七四伊賀

時貞

左兵衛

貞信

別當　山城國宇治田原に居住を
信長薨逝のとき
大徳院殿仰ありて三刀を御下向
のとき宇治田原山城と京内出と
ゝゝの時
大徳院これを惜しみて東國次の
御腸指とゝまる　物命とう

けたまはる
大徳院ゝ仕へ奉る
寿長五年七十歳にて死を

貞冨

久出雲
寿長五年関ヶ原御陣のとき
しめく
大徳院ゝ仕へ奉る

右法院敵ともに
打軍家より仕へ来る

貢(みつぎ)

久次郎
元和八年ちゝめく
右法院敵より仕へ来る
打軍家より仕へ来る

家の紋　矢筈車(やはずぐるま)

国立公文書館
National Archives of Japan

服部

正吉

和歌山　七國伊賀

若田俊和　大吏つ

正長

七左衛門　七國住吉

芦田左馬之丞

天正十年

大隅現甲州新府出陣の時忠功あるゝ

ゝよりくめ[illegible]おさ[illegible]用ケ原出陣の

時も殉命を尽して供奉

正次

七郎 生国上野

右徳院殿より代々大坂表御

陣を供奉

正久

六郎 生国駿河

右軍家より代々召出

家人役 鳴鏑草

国立公文書館
National Archives of Japan

服部

直次

碧海郡

六十一石

生田甲斐

正盛

松八郎

生田武兵

二十二歳にして死す

亜常

長六郎　生母同亦

実は稲葉長左衛門子なり

家の紋　矢筈車

服部

左京亮　生國尾張

政秀　生國尾張國

検使

永禄三年五月信長と今川義元

光嘉朴昏懸りとひく相戦こと
兵粮丹一被とをつく
大検現て多くまつの御恵とうつる
同多三州器海ていくもとして
大検現て相場しまつる遠州
河の庄ていくこと貴の地と領と
元亀三年三方原の戦陣の時
大検現の物命とうけく同国東村の
城とまりて海陸のとうとれる

政考

遠州河の庄ていく病死歳七十二

検大変　生国川かい
秀吉小田原と沉もつる時
大検現の供をして女中衆太閤る
ゐて
寿長五年上杉京勝反逆の時
大検現て三てひと智州宇加文

了 逝き 病 ありて 家 にて
同十九年大坂に陣のとき御使番
となりて 供を
武州 太田の在ふしとなく三千石の地
を賜 江州 長浜 よりひく 五石
を領をすべく 四千石なり
同二十年京都にひく 孔を 嚴
五十四

政信

松平 生国 武州 江の在
寄 長五年 開 ケ原 御陣の時
大坂 城の 供を 呵 十七歳 御 攻 陣の
場 又 百石の地と 拝領を
同十九年大坂 御陣の時 御使番と
なりて
台徳院 殿 に 立 こびて まかり
望 候 又 月 七日 天 満 黒 門 の 内

て首級となる内義弘見ち
是をみる
元和元年政宗死してより遠藤
四郎左衛門と申す者に三百
石を遣わされ候と申す三百石
本工藤兵部と領
同五月遠州今切関所の書と
はとむ時五百石の地とくゝ

寛永十九年今切関所
病死歳六十四

政久

彰義士岡武義に
元和八年五月
秀軍家に召出され多く手柄
同十月御小性組の者となる

政久

位成

与屋　七四遠江

寛永十二年

将軍家より御用御小姓組の書とる

同十六年八月

改定

本二郎　七四遠江守

寛永十八年

大坂城ハ天下の要害にて

元和元年より大坂城修理仕せ

元和元年より

四ヶ国の内江州長浜にて

と仰せ

同五年

名古屋城の御命にて

改定と同

〻〻今切開不の書を作らむ

同年長濱と溝口伯耆守殿智恵

とをくゝ出地とゝまる

寛永元年今切りとゝく病死を

歳四十五　法名宗仙

政次

本二郎　七郎武蔵守

元和二年十一歳にして

名濱陣屋敷に渡りまゝ

同七年

将軍家に渡りまゝ

同九年

名濱陣屋敷に住へきまる御小姓

組の者とつゝむ

寛永元年　汐命によりて父乃

家督と仕ま今切開不の書を一

つゝむ

敬乃級矢筈車

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan